

## 令和4年度山形市の財務書類について

令和6年3月  
財政部 財政課

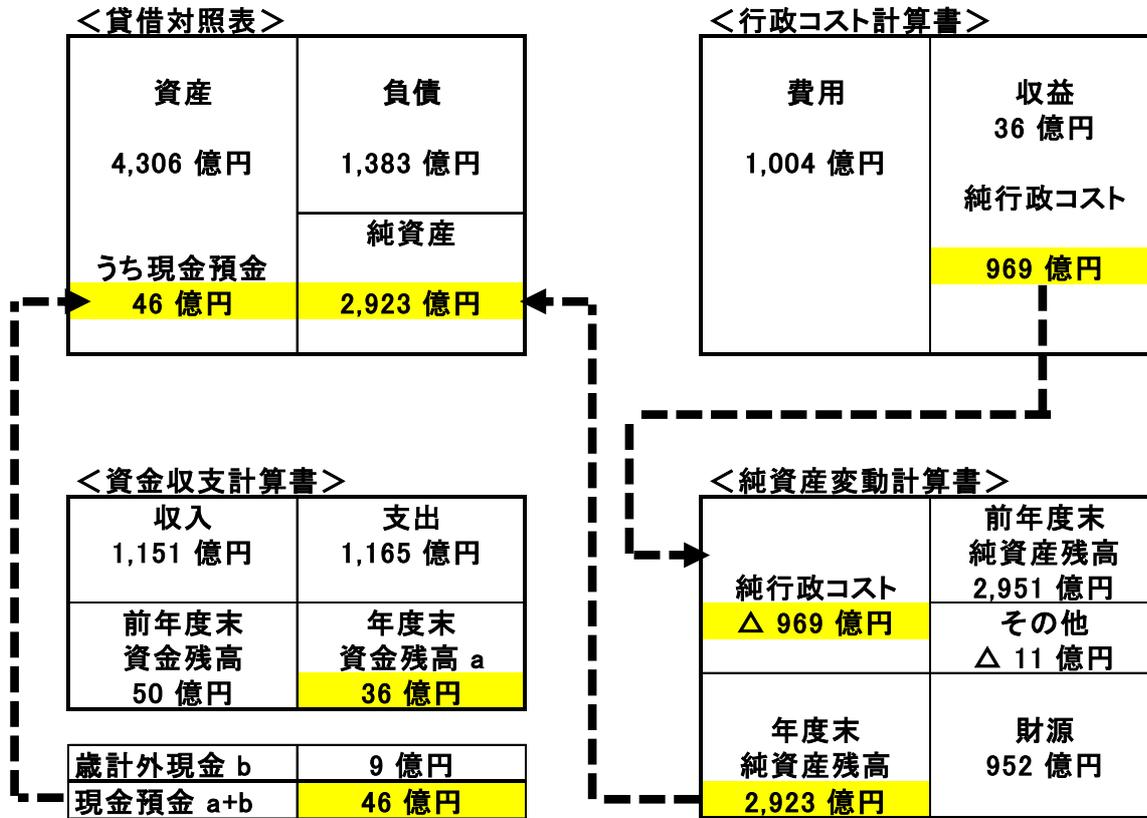
### I 山形市一般会計等財務書類の概要について

本市は、令和4年度の一般会計等財務書類について、国が平成26年度に地方公共団体における財務書類等の作成に係る統一的な基準を示したことに基づき、作成しました。

#### 1 一般会計等財務書類の重要な会計方針等

対 象 会 計	一般会計等(山形市一般会計並びに山形市区画整理事業会計及び母子父子寡婦福祉資金貸付事業会計)
対 象 年 度	令和4年度(作成基準日・令和5年3月31日) ただし、出納整理期間における取引は、基準日までに終了したものと処理
有 形 固 定 資 産	評価基準及び評価方法は以下のとおり。 取得原価にて評価 ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおり。 ・ 昭和59年度以前に取得したもの・・・再調達原価 ただし、道路、河川及び水路の敷地については、備忘価格1円で評価 ・ 昭和60年度以降に取得したもの 取得原価が判明しているもの・・・取得原価 取得原価が不明なもの・・・再調達原価 ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地については、備忘価格1円
無 形 固 定 資 産	取得原価にて評価 ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおり。 取得原価が判明しているもの・・・取得原価 取得原価が不明なもの・・・再調達原価
投 資 及 び 出 資 金	○満期保有目的有価証券・・・償却原価法(定額法) ○満期保有目的以外の有価証券 ・市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格(売却原価は移動平均法により算定) ・市場価格がないもの・・・取得原価 ○出資金 ・市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格(売却原価は移動平均法により算定) ・市場価格がないもの・・・出資金額
引当金の計上基準及び算定方法	○投資損失引当金 市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体会計に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上。 ○徴収不能引当金 未収金については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上。長期延滞債権については、過去5年の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上。長期貸付金については、過去5年の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上。 ○退職手当引当金 期末自己都合要支給額を計上。 ○損失補償等引当金 履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規則する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上。 ○賞与等引当金 翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上。

【令和4年度】



貸借対照表	一定時点における「資産」と「負債」といった財政状況(残高)を一覧で示すもの
行政コスト計算書	1年間の行政活動のうち、資産形成につながらない行政サービスの経費(人件費や物件費等のコスト)とその行政サービスの直接対価(使用料等)となる財源を対比させたもの
純資産変動計算書	貸借対照表の純資産の部(「資産」-「負債」=「純資産」)であり、資産形成の財源として費やした市税や国県補助金等の額等に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを示すもの
資金収支計算書	歳計現金(=資金)の出入りの情報を示すもの

## 令和4年度山形市一般会計等財務書類の要旨・4表の関係

### 貸借対照表の要旨

(令和5年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
<b>1 固定資産</b>	<b>421,133</b>	<b>1 固定負債</b>	<b>126,788</b>
有形固定資産	374,899	地方債	101,884
無形固定資産	0	退職手当引当金	13,446
投資その他の資産	46,235	損失補償引当金	33
<b>2 流動資産</b>	<b>9,484</b>	その他	11,425
現金預金	4,588	<b>2 流動負債</b>	<b>11,492</b>
未収金	388	1年内償還予定地方債	8,019
短期貸付金	148	賞与引当金	892
基金	4,384	預り金	944
徴収不能引当金	△ 24	その他	1,638
		<b>負債合計</b>	<b>138,280</b>
		純資産の部	
		固定資産等形成分	425,666
		余剰分(不足分)	△ 133,329
		<b>純資産合計</b>	<b>292,337</b>
<b>資産合計</b>	<b>430,617</b>	<b>負債および純資産合計</b>	<b>430,617</b>

※ 有形固定資産のうち減価償却累計額は、事業用資産は95,574百万円、インフラ資産は89,580百万円、物品は6,751百万円です。

### 資金収支計算書の要旨

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位:百万円)

1 業務活動収支	2,618
2 投資活動収支	△ 1,025
3 財務活動収支	△ 2,940
<b>本年度資金収支額</b>	<b>△ 1,346</b>
前年度資金残高	4,990
<b>本年度末資金残高</b>	<b>3,644</b>

前年度末歳計外現金残高	953
本年度末歳計外現金増減額	△ 9
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>4,588</b>

収入総額	115,111
支出総額	116,457
<b>財政収支</b>	<b>△ 1,346</b>

(収入は繰越金を除く)

### 行政コスト計算書の要旨

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位:百万円)

<b>1 経常費用</b>	<b>100,056</b>
業務費用	53,217
人件費	16,068
物件費等	35,907
その他の業務費用	1,242
移転費用	46,839
補助金等	17,860
社会保障給付	23,125
他会計への繰出金	5,848
その他の業務費用	6
<b>2 経常収益</b>	<b>3,515</b>
使用料及び手数料	1,440
その他	2,075
<b>純経常行政コスト</b>	<b>96,541</b>
臨時損失	363
臨時利益	37
<b>純行政コスト</b>	<b>96,868</b>

### 純資産変動計算書の要旨

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位:百万円)

<b>前年度末純資産残高 a</b>	<b>295,137</b>
純行政コスト(△) b	△ 96,868
財源 c	95,179
<b>本年度差額 d(=b+c)</b>	<b>△ 1,688</b>
資産評価差額 e	△ 0
無償所管換等 f	△ 1,112
その他 g	-
<b>本年度純資産変動額</b>	<b>△ 2,800</b>
h(=d+e+f+g)	
<b>本年度末純資産残高(=a+h)</b>	<b>292,337</b>

※ 貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書は総務省の統一した基準により作成しております。  
 ※ 各表示額は、十万の位で四捨五入しているため、内訳と合計が一致しないことがあります。